



写真検証から辿るドイツ人捕虜の足跡

徳島の過去と今

第二次世界大戦における捕虜の扱いから、近代日本の捕虜政策は負のイメージで捉えられることが多くあります。しかし、第一次世界大戦時の日本の収容所、特に徳島・板東俘虜収容所では俘虜たちへさまざまな活動が許され、地域社会に貢献したことも知られています。

徳島と板東の収容所の俘虜たちが残した数々の写真から100年以上の時間が過ぎた現在ではどうなっているのかを探っていきます。

日時 2024年8月19日(月)～11月29日(金)

場所 徳島大学総合科学部1号館1階ミニ展示スペース

入場無料

主催 徳島大学大学院地域創成専攻

「地域創成プロジェクト研究」参加学生一同

鳴門市ドイツ館

徳島大学総合科学部

プロジェクト担当: 依岡隆児(総合科学部教授)・井戸慶治(総合科学部名誉教授)